

新 春 企 画

今年の抱負 世界に羽ばたく 岩手企業

2017年が幕を開けた。今年の日本経済は、景気回復の見通しは…。
さまざまな要因が複雑に絡み合う日本社会から、いち早く海外に
ビジネスチャンスを見出した企業がある。
岩手から世界へ、羽ばたくトップが抱負を語る。



新年のごあいさつ

公益財団法人 いわて産業振興センター

理事長 立花 良孝



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

平成29年は、当センターが、昭和42年に前身の「岩手県中小企業設備貸与公社」として設立されてから50周年の大きな節目を迎えます。

これもひとえに、産業界関係者並びに会員の皆様、国・県当局はじめ関係機関の皆様の長きにわたるご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

これからも、産業界のニーズに適切に対応しながら、岩手の発展に一層、貢献して参りますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は、酉年、飛躍の年であります。「産業情報いわて1月号」では、酉年にふさわしく、世界に羽ばたく岩手の企業を特集しました。

グローバル化は岩手の中小企業にとっても避けられない課題であり、当センターでも関係機関と連携しながら、プロフェッショナル人材の確保や販路開拓、海外進出支援など様々なメニューで後押ししたいと考えています。どうぞ、お気軽に、当センターをご活用ください。

今年も、「産業情報いわて」をご愛読いただきますようお願い申し上げますとともに、皆さまにとって良い一年となりますことをお祈り申し上げます。

(株)ピーアンドエー テクノロジーズ

代表取締役 大関 一陽

自動車産業をメインに、
医療・福祉分野でも世界を
ターゲットに技術開発



JI-GLOBA(株)

代表取締役 立花 裕

グローバル経済の進展を見据え、
積極的に「岩手」ブランドを
世界に発信



日本経済にも激震が走ったリーマン・ショック。その翌年の平成21年に、ハード・ソフトウェアの開発メーカーとしてスタートしました。社歴は浅いのですが、メンバーは組み込み業界で10年から20年以上キャリアを積んできた技術者が主体。創業時からの代表的製品のひとつであるUSB接続型デジタルオシロスコープも、メンバーが以前在籍していた企業で開発した技術をベースとしています。リーマン・ショックは好調だった半導体産業の急激な凋落を引き起こしましたが、当社では創業時から自動車関連事業を柱に据え、大手輸送機器メーカーとの直接取引も実現しました。得意分野は電子制御ユニット（ECU）関連機器やUSB関連機器、計測制御関連機器などの開発であり、回路設計から筐体設計までを一貫体制で行うことができるのが強みです。

当社ではさらに組み込みシステムの受託開発にも取り組んでおり、その中から生まれたCAN（Controller Area Network）やLIN（Local Interconnect Network）などの車載通信システムを監視したり模擬できる通信シミュレータ・モニタのViCSiM（ヴィクシム）は、高度に電子化された自動車を開発するツールのひとつとして重要なもの。自動車には1台につき300個ものコンピュータが搭載されているといわれ、システム間のデータトラ

フィックの監視や解析が製造者に求められますが、東北では当社以外にこのような装置を製作している企業はなく、国内でも数社のみ。他社がやらない「ニッチでグローバル」な分野が目指すところ です。

CANとLINは国際規格として広く世界中で使用されており、マーケットは日本だけに留まりません。

平成24年には中国での展示会にデジタルオシロスコープをメインに出展し、「海外でも売れる」という手応えを得ました。その後はジェットロなどの支援を受けながらリサーチとアプローチを重ね、現在は上海とマレーシアに販売代理人を置き、韓国には開発パートナー企業が誕生しています。

さらに当社では5年前から産学連携で福祉機器の開発にも取り組んでおり、組み込みシステム技術のノウハウを活かしたりハビリロボットの量産化も視野に入ってきました。福祉や医療の分野でも、中国はじめアジアは有望なマーケットです。これまでの4年はいわば「種まき」でした。これからが刈り取り期と考え、事業展開していきたいと考えています。

CORPORATE DATA

本 社	盛岡市永井16-13-1	創 業	平成21年(2009)9月2日
電 話	019-637-8330	U R L	http://www.pa-tec.com/

「いわての優れた商品を世界へ輸出」を目的に新たに創業したのが平成22年。現在では食品や日本酒はもちろん県内外の産品、住宅機器、建設資材などの輸出入事業および、服飾・文具・雑貨・建築資材の海外生産および販売も手がけ、さらに国内メーカーからの製造受託事業など多岐に渡る事業を展開しています。現地法人は中国と香港、オセアニアに置き、ほか東京に海外事業部を展開。ここ盛岡市の本社には、県内企業として一番最初の取得となった輸出酒類卸売業免許にともない、酒の蔵置場も設置されています。

しかしながら、当社のこれまでの道のりは平坦ではありませんでした。当初主力展開をしていた建築資材の海外生産事業は、リーマン・ショックにより価格が暴落。ちょうどその頃に岩手県大連経済事務所が設置されたこともあり、中国市場へ日本産食品の輸出に舵を切りました。しかし東日本大震災にともなう原発事故や尖閣諸島問題などの影響で市場が止まってしまったのです。この試練は逆にアジア全体に目を向けるきっかけとなり、その後の香港、マカオ、台湾市場開拓への原動力となっていきました。近年はタイやベトナムなどのアセアンにもトライアルを始めています。

和食のユネスコ無形文化遺産登録を追い風に、世界では日本の食品が注目を集めていますが、世界市場で「岩手」のブランドバリューはまだまだ低い。ではどんな形でブランド化

を目指すのか。「南部（NANBU）」「三陸（SANRIKU）」という海外でも知られたキーワードから、南部なら「杜氏」「鉄瓶」、三陸であれば「吉浜（きっぴん）アワビ」「さんま」というような、高品質な岩手産品を連想できる「地域、産地のまるごとブランド化」ができれば素晴らしいと思います。もちろん世界市場に出せる商品は他にも数多くありますが、世界という巨大市場では安定的な価格が重視されるため製品ロット数が少ない地方のメーカーには不利。ですが、そんなハンデをも乗り越えていける「ブランド」づくりこそ今後は必要になっていくと考えています。例えば県内多くの蔵元が醸造した岩手県の最上級酒米を使った純米大吟醸「結の香」のように、企業単体ではなくもっと大きな枠組みで取り組んでいくことが重要です。そこから共同工場の建設などの新たな可能性も出て来るかもしれません。

全国には積極的な輸出戦略をとる自治体も多く、今後は地域間で「輸出事業者」と「地元生産者」という2極化が進むと予測されます。岩手がこの潮目に乗り遅れないよう、当社の県産品輸出に関する知識や経験を伝え、海外と地域社会を結ぶパイプ役になりたいと考えています。

CORPORATE DATA

本 社	盛岡市上堂3-16-15	創 業	平成12年(2000)1月
電 話	019-648-8234	U R L	http://www.jigloba.com/info2.html